

氏名                      村 田 雅 彦

学 位 の 種 類          医 学 博 士

学 位 授 与 番 号      乙 第 248 号

学 位 授 与 の 日 付    昭和42年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件    博士の学位論文提出者  
(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目      制癌剤の副作用防止に関する研究

論 文 審 査 委 員      教授 砂 田 輝 武    教授 田 中 早 苗    教授 山 崎 英 正

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

現在もっとも広範な抗腫瘍スペクトラムを有する Mitomycin C を使用するに際し、副作用とに造血臓器に対する障害の防止策として、Streptomycin, 塩化マグネシウム, Kidola, Orotic acid, OX 物質, Sarvinal 等の併用を試みた。

すなわち Ehrlich 腹水癌を接種せるマウスを使用してこれらの薬剤を種々の量、投与法、投与期間を変えて多方面よりその是非を検討した。Mitomycin C 単独群に比較して造血臓器に及ぼす影響は末梢血の白血球、赤血球、血小板数よりみて Streptomycin 併用, Sarvinal 併用, 塩化マグネシウムの併用が有効であった。腫瘍効果については OX 物質併用がもっとも有効で他は有意の差はない。延命効果については、Streptomycin 併用群がもっとも有効で、次いで Sarvinal 併用であった。総合的に Mitomycin C の使用に際しては Streptomycin 併用が有効であることが明らかとなり、臨床的にもこの併用により40例中94.7%の有効率を挙げえた。

(昭和42年 8 月 岡山医学会雑誌第79巻 7.3号に掲載予定)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は制癌剤の副作用防止に関して実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、従来使用されていなかった薬剤の併用による副作用防止について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。